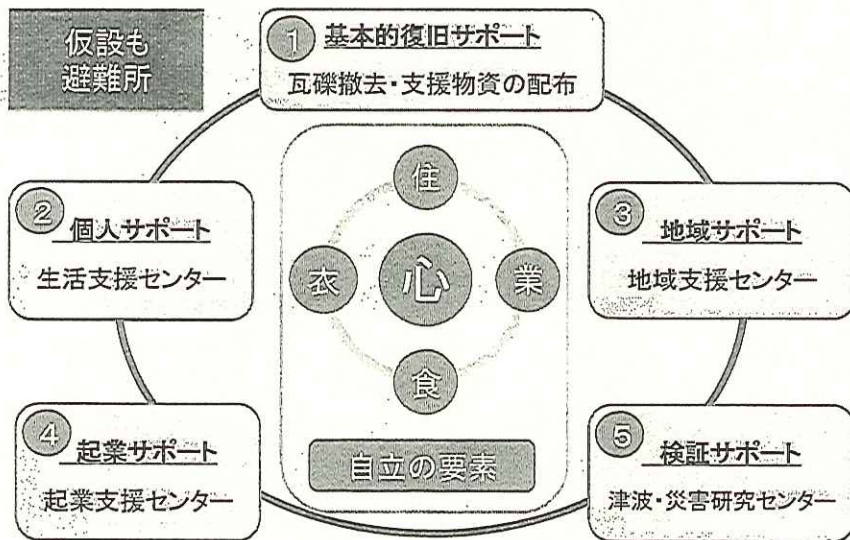
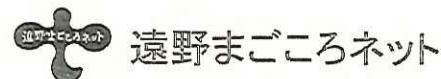


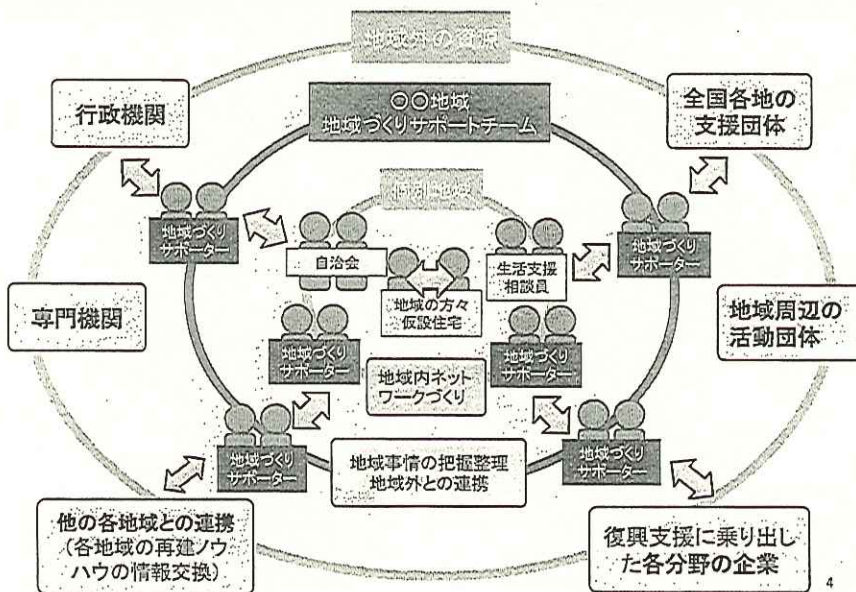
遠野まごころネットは、5つの分野でサポート体制を構築



地域づくりサポート事業 —地域一体での仮設ケア—



地域づくりサポーターを配置したネットワーク形成



地域と個人の自立再建へ

「人與人」から「地域と人・地域」の支え合いへ
地域の事情と外部の力の融合による地域づくり
潜在的な「地域の人材＝復興力」の発掘・活用



「地域のちから」と「それを補う外部サポート」の融合で
各地域の特色に合った「地域づくり」を推進する

遠野まごころネットによる 地域づくりサポート事業例

7

遠野まごころネットの財産① 「地域に寄り添う」活動

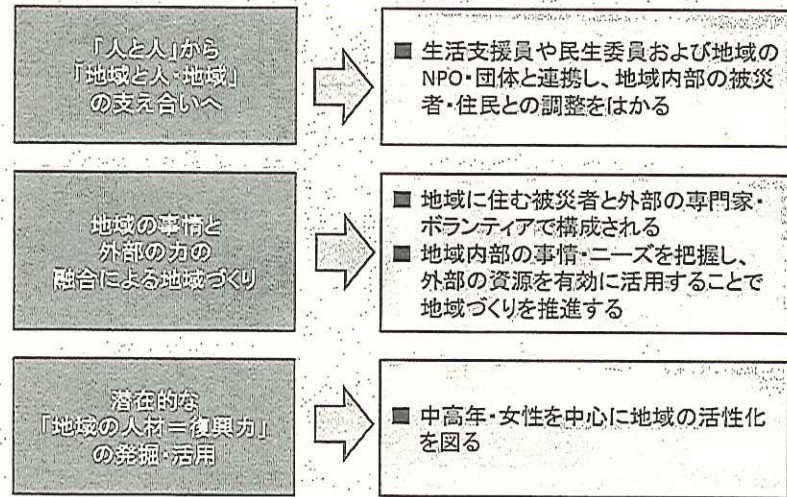
ハードとソフトの活動を分けず、地域が育つことを考えながら、地元の人と立ち上がってまいりました



冬～これから 地域の自立、生活再建へ持続的で多面的なサポートが必要になります

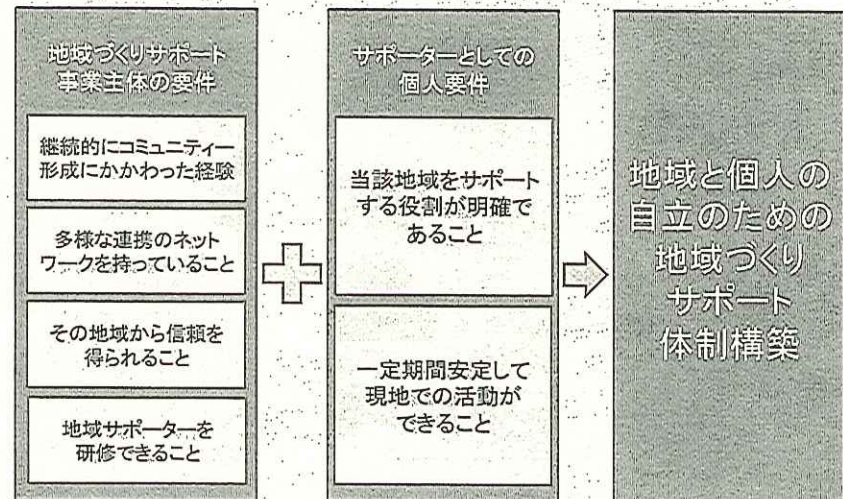
8

「地域づくりサポーター」とは



5

「地域づくりサポート事業」参加者の要件



6

遠野まごころネットで考える地域づくりサポーター体制 大槌町

各地域に合った運用体制を作る

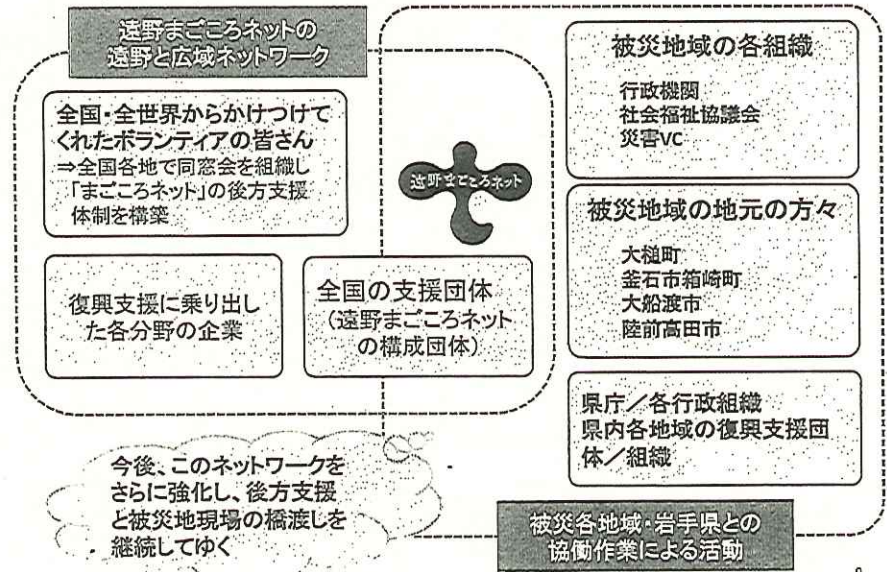
大槌町
第二まごころの郷
基本整備プラン



地域と共同で郷創りを進める。
↓
仮設住宅から外へ出て、地域が地域をケアする。在宅者やボランティアとの交流の場となる。
↓
生きがいづくり、将来も交流の場として有効活用でき、産業発生の可能性もある。ハーブ商品等
↓
ボランティアは姿を消し、ボランティアだった人が毎年訪れる。他市町村と地域間交流の場ともなる。体験宿泊

大槌町の自然に親しめる場として永続的に残る。

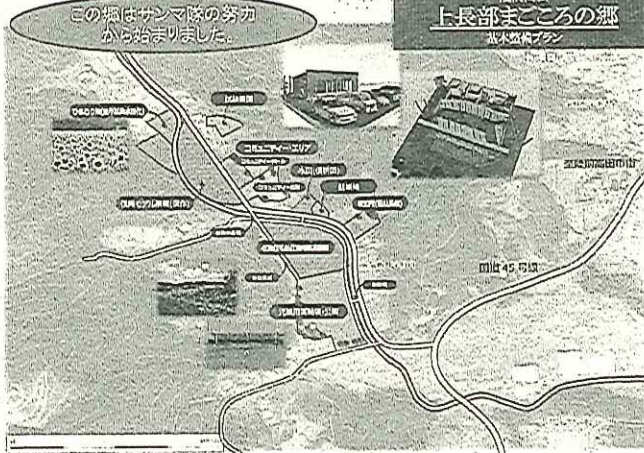
遠野まごころネットの財産② 被災地域～広域の多重ネットワーク



遠野まごころネットで考える地域づくりサポーター体制 陸前高田市

各地域に合った運用体制をそれぞれ作る

陸前高田市
上長部まごころの郷
基本整備プラン



この地域に流出したサンマが戻った地域を厄災が包んだ。
↓
瓦礫がサンマの上に積たわり、サンマの回収は難航した。
↓
やがてサンマと瓦礫が撤去され、活動は、復興支援へと進んだ。
↓
復興も復耕も地域とボランティアが一体となって進んだ。
↓
畑に撒いた種は目を出し、花が咲いた。野菜も実がなった。
↓
仮設住宅から外へも参加している。地域が地域をケアしている。

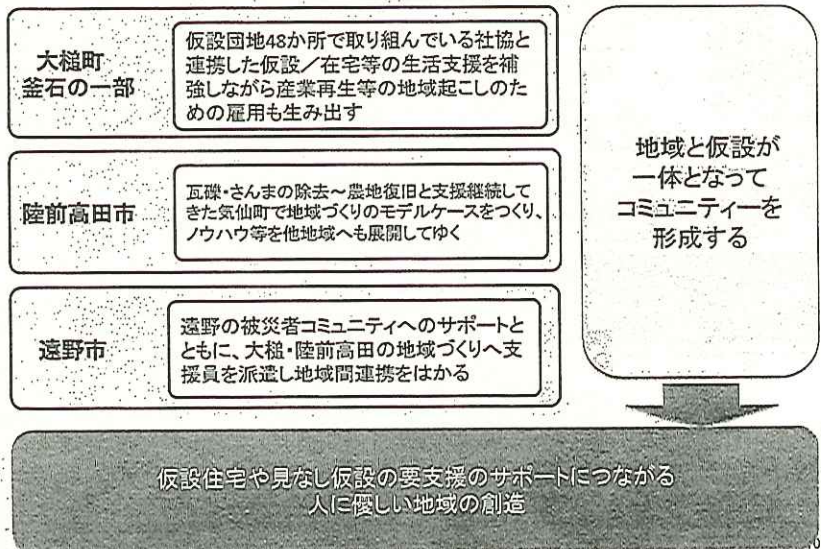
この郷はサンマ隊の努力から始まりました。

ボランティアは姿を消し、ボランティアだった人が毎年訪れる。他市町村と地域間交流の場ともなる。農業体験宿泊等

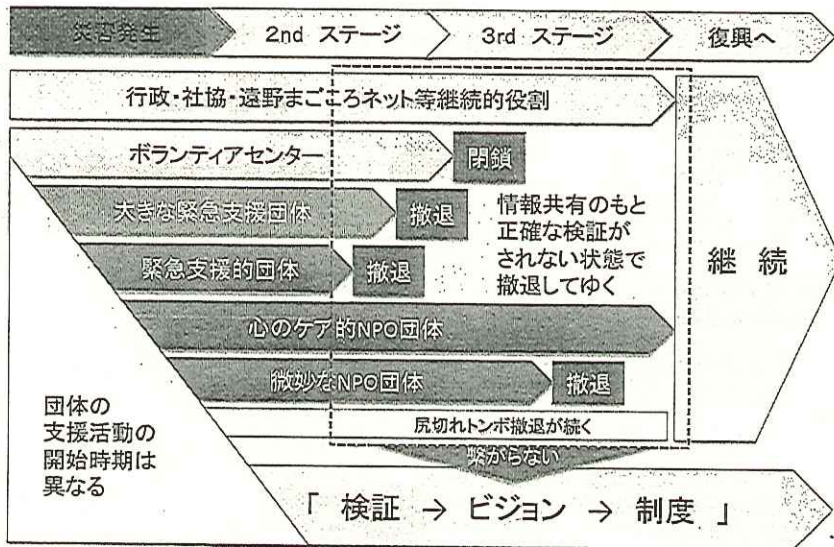
上記は自治会が行政と協議して決定した計画ですが、変更が生じる場合があります。

遠野まごころネットで考える地域づくりサポーター体制 全体

各地域に合った運用体制をそれぞれ作る

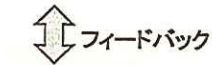


災害支援が検証に繋がらない



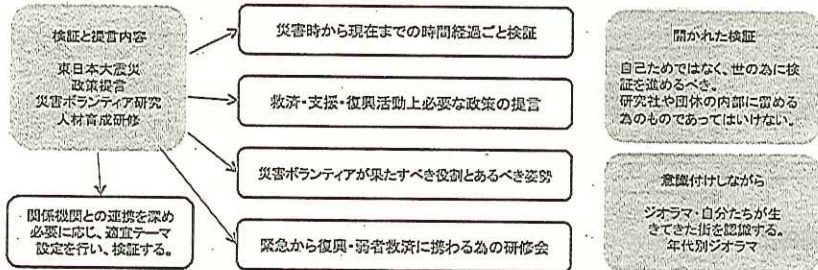
参考資料:「地域づくりサポーター」の役割

地域サポーターの役割	内容
地域事情の把握	地域ごとの多種多様なニーズを把握する
要支援者のサポート	生活困窮者や独居の高齢者を補助する
コミュニティ形成	地域の人々と継続的に対話しながら、地域づくりをサポートしてゆく
外部資源の活用	地域外の企業・団体と調整し、地域づくりに必要なサービス資源をつなぐ
雇用創出と起業 (地域資源の発掘と活用)	地域における潜在的な人材、産業・文化の可能性を発掘し地域づくりに活用する → 雇用創出・企業
行政・専門機関との連携	早急かつ困難な対応が求められるニーズに対して行政や専門機関のサポートを求め、適切な対応を行う



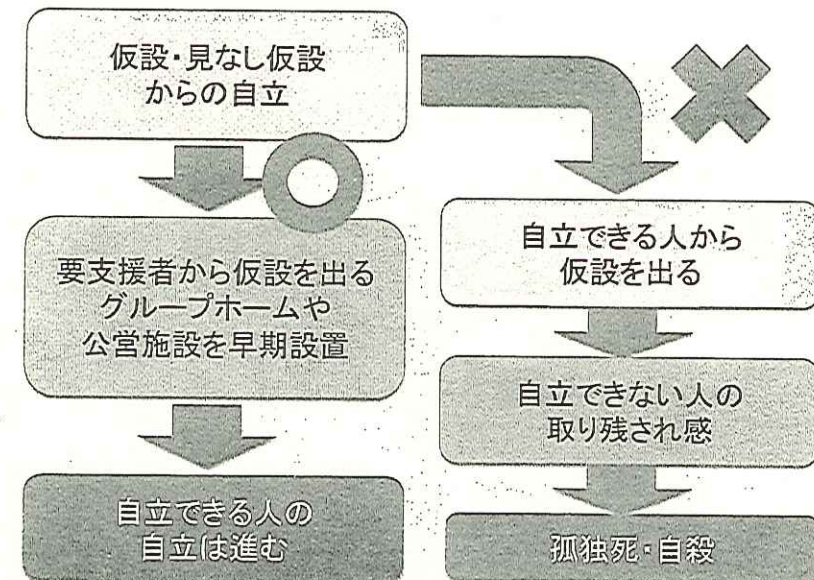
研修・検証 地域づくりサポーターの研修・育成を行い、資質の向上をはかるとともに、求められるサポーター像の検証を行う

良いビジョン



良い検証 → 良いビジョン → 良い制度 = 使える 使う気になる
結果 → 実行し効果が出る

行政に民間感覚を求めるように、民間にも行政感覚が必要。出来る者が出来る事をする。そしてどちらかがサポートをする。行政と民間の境界は出来るだけない方が良い。



コマーシャル

17

「上長部の干し柿」は12月初旬販売予定です。



購入方法等も遠野まごころネットHPに掲載いたしますので、
ご検索ください。宜しくお願いします。